



南風

教育
目
標

- ・自ら学び工夫し
- ・思いやりの心を持ち
- ・体を鍛える生徒

令和8年度 4月号

未知の時代を切り拓く「三つの鍵」

陵南中学校長 天野 拓二

うらかな春の光が降り注ぎ、高尾の山々、校庭の木々が瑞々しい若葉を芽吹かせる季節となりました。陵南中学校は、新入生68名を迎え、全校生徒188名で令和八年度のスタートを切りました。保護者の皆様、お子様のご入学、ならびにご進級、誠におめでとうございます。心よりお祝い申し上げます。

中学校の三年間は、人生の中でも最も変化に富み、精神的な土台を築く極めて重要な時期です。この多感な時期を過ごす生徒たちが、変化の激しい現代社会において、自分らしく、たくましく歩いていくために、本年度の本校では「対話」「尊重」「創造」という三つのキーワードを教育活動の柱に据えてまいります。

一つ目のキーワードは「対話」です。

SNSの普及により、私たちは瞬時に情報をやり取りできるようになりました。しかし、その一方で、自分と異なる意見を持つ相手とじっくり向き合い、言葉を尽くして理解を深める機会が少なくなっているようにも感じます。

「対話」とは、単なる情報の伝達ではありません。自分の考えを言語化し、同時に相手の言葉の裏にある思いを想像することです。授業での話し合い、行事の企画、時には友人との衝突。それらすべての場面において、安易な妥協や拒絶ではなく、粘り強く言葉を交わし続ける姿勢を育てたいと考えています。納得できるまで対話を重ねるプロセスこそが、これからの社会を生きる生徒の力になります。

二つ目のキーワードは「尊重」です。

グローバル化が進む現代において、異なる文化や価値観、多様な個性を認め合うことは、重要で必要な力です。しかし、他者を尊重するためには、まず「自己肯定感」をもつことが欠かせません。自分自身の良さに気づき、自分を大切にできる生徒は、他者の痛みにも敏感になれます。本校が目指すのは、誰もが「ここにいてもいいんだ」と安心して自分を表現できる学校です。自分の「当たり前」が他人の「当たり前」ではないことを知り、互いの違いを「間違い」ではなく「豊かさ」として受け入れる。そんな温かな眼差しが行き交う笑顔あふれる学校を、生徒と共に創り上げてまいります。

三つ目のキーワードは「創造」です。

AI(人工知能)をはじめとする技術革新により、社会のあり方は劇的に変化しています。これからの時代に求められるのは、既存の正解をなぞる力ではなく、自ら問いを立て、新たな価値を生み出していく力、すなわち「創造性」です。

学習においても、行事や部活動においても、失敗を恐れずに「まずはやってみる」という挑戦心を大切にします。たとえ結果が思うようなものでなくても、試行錯誤した過程には必ず新しい発見があります。自らの手で未来を、そして自分自身の人生をより良いものへと作り替えていく。その「創造」の喜びを、この中学校生活で数多く経験してほしいと願っています。

教育は、決して学校だけで完結するものではありません。家庭という安らぎの場があり、地域という温かな見守りの目があって初めて、子どもたちは安心して翼を広げることができます。私たち教職員一同、一人ひとりの生徒が持つ無限の可能性を信じ、時に厳しく、時に寄り添いながら、全力で教育活動に邁進する所存です。保護者の皆様、地域の皆様におかれましては、本年度も本校の教育方針への深いご理解と、変わらぬご支援を賜りますよう、切にお願い申し上げます。